

原型炉開発に向けたアクションプラン改訂版 における「ヘリカル方式」の取扱いについて

アクションプラン（13. ヘリカル方式）について

❖ 原型炉開発に向けたアクションプランにおける「ヘリカル方式」の位置付け（現行）

- 2ページ「1. 原型炉開発に向けたアクションプランの検討について」において、『ヘリカル方式については、ヘリカル型定常核融合炉に向け、自然科学研究機構核融合科学研究所を中心に進められる研究開発の多くの部分が、上記の原型炉に向けた共通の技術基盤を提供しうると考え、アクションプランにも位置付けている。』
- ヘリカル装置における研究は、（13. ヘリカル方式）に加えて、アクションプランの主要課題（0.～12.）にも深く関与している。
- ヘリカル方式の独自性がある研究に関しては、（6. 炉心プラズマ）の『LHD, ヘリオトロン』という小課題に記載されている。

❖ 検討事項

- 核融合科学研究所では、コミュニティを挙げた議論によって、核融合科学に対する考え方をアップデートした。（13. ヘリカル方式）のアクションプランは、ヘリカル型定常核融合炉に向けた開発研究計画を述べたものになっているため、原型炉に資する研究は主要課題（0.～12.）に割付け、「ヘリカル方式」の項目は、項目別解説及び構成表から削除してはどうか？

参考資料 「原型炉開発に向けたアクションプラン」

1 原型炉開発に向けたアクションプランの検討について

平成 28 年 2 月

原型炉開発総合戦略タスクフォース

2. アクションプランについて（抜粋）

きことを認識しつつ、それらが原型炉に向けた共通の技術基盤を提供できる部分について、アクションプランに取り入れることとした。

ヘリカル方式については、ヘリカル型定常核融合炉に向け、自然科学研究機構核融合科学研究所（以下、「核融合研」という）を中心に進められる研究開発の多くの部分が、上記の原型炉に向けた共通の技術基盤を提供しうると考え、アクションプランにも位置付けている。一方、レーザー方式については、磁場方式とは大きく異なる原理を用いることから、現在進められているレーザー方式特有の研究開発が、トカマク型原型炉に向けた共通の技術基盤の提供に資する部分は限定的にならざるを得ない。しかしながら、その共通の技術基盤への寄与が、レーザー方式の研究